

## 下妻 Cup 参加報告

ひたちなか市第4種5年生トレコーチ 富田 教夫

3月10日～11日にかけて下妻 Cup に招待され参加致しました。  
下記試合内容及び結果を報告致します。

今回の参加目的

5年生の大会であります、関東各地から強豪チームが集合する大会でありました。

1月～3月の練習目的であります

- (1) 速く数少ないボールタッチでのパス
- (2) FW のフォアチェックによるパスコースの限定
- (3) 積極的にシュートを撃つこと

を選手一人一人に意識付けて大会に臨みました。

3月10日(土)

予選第1戦 vs 中志津 SC(千葉県千葉市クラブチーム) : 0 - 0△

Formation: 3 - 4 - 3

試合序盤から FW が相手選手をサイドに追い込み、パスコースを限定したところでボールを奪う事ができました。

しかしながらボールを奪うエリアは中盤ではなく両サイドの DF であり、相手の DF へのアプローチが速い為に自由にボールをもたせてもらえませんでした。

また時折中盤でボールを奪えましたが、トップ下の選手とボランチの選手が中盤の中央で重なるなり両サイド MF や DF からのパスに対して両選手が譲り合い、相手の中盤の選手にボールを奪われカウンターを受ける事がありました。

この局面に対してもセンターバックの選手のかバーリングがよくシュートを打たれる前に処理できました。

攻撃面では 1st TOP の選手が中盤から上手くつながれたパスを 2nd TOP の選手にポストワークで落とす局面もありましたが、両サイド FW の選手がタッチライン際でボールを受けたがる傾向にあった為に 1st TOP の選手との両 2nd TOP との距離が離れ、次第に 1st TOP の選手が孤立する事が多々あり前半は目立ったシュートはありませんでした。

ハーフタイムにトップ下、ボランチの選手に中央で重ならないように、ボランチの選手にはもう少し DF よりの守備位置を取る事、トップ下の選手にはもう少し FW よりのポジションを促して 1st TOP の選手のポストワークに対するフォローを行なう事を指示しました。

また 2nd TOP の選手にはあまり 1st TOP の選手との距離を離さない事とゴールまでの距離が遠くてもシュートを撃つ事指示しました。

後半に入ってからトップ下、ボランチの選手が重なる事があった事と両サイド MF から FW へのパス供給源を増やす為に選手交代とポジションコンバートをしました。

この選手交代とコンバートがよく中盤中央での閉塞感が無くなり、また MF と FW の選手の連携がよくなり始めまして決定機をつくれました。

また攻撃陣も積極的にシュートを打つようになり主導権は完全に自分達のペースとなりました。しかしながらシュート精度が悪く得点には至りませんでした。

結果は両チーム共にスコアレスドローでした。

予選第 2 戦 vs スルテ・ジュニオルス (神奈川県横浜市クラブチーム) 4-0〇

Formation:3-4-3

2 試合は試合の入り方を注意し、FW、トップ下の選手は一番最初にボールが渡って来たときにはどんなに遠くても必ずシュートを撃つ事を指示しました。

試合に入ってからこの指示を忘れてしまったのか、中盤でボールポゼッションが高いままゲームを進める事はできましたが前半終了しても FW、トップ下共にシュートは 0 本でした。

極めつけは MF から FW によいスルパスが通され GK と 1 対 1 になる場面がありましたが、さらにパスを前方中央の FW にして OFF Side になってしまい折角の Big Chance を潰してしまいました。

ハーフタイムに予選 1 試合目が引き分けた理由を再度認識させ必ずシュートで攻撃を終了するように指示しました。

後半は前半とはことなり、積極的にシュートを打つようになり、そのこぼれ球を FW の何れかの選手が拾い再度シュート狙うようになりました。

この試合最初の CK から FW の選手に良いボールが入り得点。

その後もシュートのこぼれ球を押し込み追加点、さらにこぼれ球を取られないようにアプローチをかけてきた裏に MF から FW の選手にスルパスを通し 3 点目

後半 7 分にも、やはりシュートのこぼれ球を混戦の中、FW の選手が押し込んで 4 点目という形で得点できました。

守備も MF の選手が中盤での速いアプローチで相手の攻撃を潰し、後半は GK、CB が触る事が無く 4-0 の完勝。

1 位リーグ決定戦 vs 総和南(茨城県猿島郡) 0-1●

Formation:3-4-3

FC 北条には身体が大きく遠くからシュートをうつ選手(背番号 10)がおり、中盤でのアプローチを怠ると苦戦することを注意して試合に臨みました。

試合は前半から中盤での潰しあいになりお互いにシュートを撃つ機会も殆んどありませんでしたが、唯一前半 7 分に、中盤のアプローチが遅くなったところをもっとも注意していた 10 番にロングシュートを打たれて今大会初失点。

その後も決定機がお互いになく FW でボールをキープできないこともあって、身体の大きい FW の選手を投入しました。

この選手が一度中盤におりてきてボールをキープする場面も増え、次第にボールポゼッションが高くなりはじめました。

後半は前半以上にポゼッションが高くシュートもロング、ミドルをとわず打ちましたがこぼれ球を拾う事ができませんでした。

また相手も自陣に引いて守るだけでなくカウンターでセク外 DF の裏にボールをだされ 10 番に 2 度決定機をつくられましたが、DF 陣の頑張りで追加点を奪われる事はありませんでした。

後半 7 分に疲れの出てきた MF、DF の選手を交代させました。

交代した選手はお互いハードマークで相手 FW を中盤からペナルティエリア前で潰してくれました

この 2 人の頑張りもあって、中盤で潰したピンチを各 MF の選手が繋ぎ、相手 DF 裏にスルーパスを通す事が数度ありましたがシュートが枠をとらえることが出来ず 0 - 1 の惜敗(2 位リーグ決定戦にまわりました)

## 2 位リーグ 1 試合目 vs 七重 FC(茨城県坂東市)

### Formation:3-4-3

天候が雨でグラウンドがぬかるんだ状態での試合でした。グラウンド状態が悪だけでなく選手のモチベーションも低くパスも上手く繋がらない状態でした。

何度か FW に良いボールが入るのですが、どうしてもパスを回すだけでシュートを打ちません。

後半も決定機があるものの、シュート精度が悪く枠を捕らえることが出来ない事が多く、0 - 0 の引き分けになりそうな試合終了間際にショートコーナーのこぼれ球混戦を FW の選手が角度の無い位置から蹴り込んで決勝点 1 - 0 の辛勝

## 2 位リーグ 1 試合目 vs FC 北条(茨城県つくば市) 0 - 1●

### Formation:3-4-3

この試合も 1 位決定戦の総和南同様に中盤中央に身体が大きく足の速い選手(背番号 13) が居る為にアプローチを早くする事、グラウンドが悪いので粘り強く守る事を支持しました。

1 位決定戦同様に身体が大きくスピードのある選手にたいして、引いてしまう傾向に有る為にどうしても対応が後手後手になり前半 5 分に中央を突破され失点

ハーフタイムに体の小さな選手に対して下記のような指示をしました。

- ・ 身体の高さで劣っていても、きちんと自分の身体を相手に当てる事で十分な守備ができる。
- ・ 1 人での守備が無理そうな時は守備の Challenge & Cover で組織的に守れば問題無い。
- ・ 守備が諦めたら相手攻撃は楽になるから、一度抜かれてもまた追って行こう

後半直ぐにこの指示を理解してくれたのか、ひたちなかセク外のちいさな MF 選手が 13 番の選手に積極的なアプローチを行い、この選手からボールを奪って FW の選手につなぎスルーパスがで

でチャンスになりました。(残念ながらシュートできず)

このプレーが萎縮的だった MF、DF 陣を奮い立たせ、積極的なアプローチでボールを奪い、抜かれても再度ボールを追いかけて奪う等、気持ちの入ったプレーが出来るようになりました。

攻撃陣も奪ったボールをドリブル、浮き球のパスを使うなどグラント条件に見合ったボール運びをするようになりました。

後半 10 分にはこの大会一番のファンタジー溢れるプレーを見る事ができました。

中盤で 13 番からボールを奪い FW の選手へつなぎ、ツタツチでの横パスをクリアされましたが、このクリアボールをインサイトし、ダイレクトで横にいた選手に落とし、落とししたボールをダイレクトでセンタリング、センタリングボールを FW の選手がダイレクトのインサイトでポストプレー、更にこのポストボールをダイレクトシュート!

残念ながら枠を僅かに外れました。(全てダイレクトプレーであった事が **Excellent** でした)

でもこのプレーは一人一人の選手が自分の持っている最大限判断力と技術力を合わせた集大成のプレーであったと思います

残念ながらこのプレー後も **Big Chance** は沢山ありましたが、得点できず 0 - 1 の惜敗で下妻 Cup を終了しました(2 位リーグ順位決定戦はグラントコンディション不良の為中止)

今回の大会は 6 年生ひたちなか選手権と重なった為に、セレクト選手 17 名にて参加しましたが、選手一人一人がよく頑張ってくれたと思います。

しかしながらボールポゼッションが高く保てるのに積極的にシュートを撃つ事をしない?ためらってしまう?意識を改革する必要があると思います。

ただ FC 北条戦でみせたこの連続ダイレクトプレーは心臓が高鳴り興奮した時であり、選手一人一人に **Excellent** と誉めて上げたいです。

またこのような心臓が高鳴るプレーをしてくれる選手を育てて行きたいと思います。

以上